

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

前号の続きです。

社会人となった彼はさらなる高みを求め、ついにオリンピックをめざすことになります。

しかし2000年シドニーオリンピックでは、あと少しのところまで日本代表の夢は叶いませんでした。

それでも諦めなかった彼は、2002年の全日本選手権大会で初優勝。レスリングナショナルチームに入り、ウズベキスタンで開かれた最終選考会で世界選手権2位のロシア代表選手に見事勝利し優勝。

そして、2004年アテネオリンピックの日本代表選手として、あの吉田沙保里選手や伊調選手姉妹と共に出場を果たしたのです。

そんなレスリング人生の原点を、彼はこう締めくくってくれました。

現在から過去を振り返ってみます。

現在は、家庭で妻と4人の子どもの大黒柱として、職場では部下を抱えて仕事をする立場となり、レスリングではコーチとしての人生を歩むようになりました。

こうした人生を歩んでいくうえで大きな糧となっているのは、中学校時代に同級生と心の中にある思いを語り合えたことであり、「俺の目を見る」と言った先生との出会いです。

その後に数々の人と出会い、自分の思いを伝えていくこと、人を思い優しく接していけるようにと心がけて生きていけているのも、あのときの授業で、

「人の横に憂いがある。人の苦しみや悲しみがわかる人間が優しい人間」

と教わり、本当の強さ、強い人間は優しい人間だと教わってから、度重なる岐路で自分を見つめ、進む道を選ぶことができました。

それと、詩「峠(真壁仁)」です。

この詩も、教材としてみんなで、この先の人生でどのように進むかなどを語り合いました。

今年は、リオデジャネイロオリンピック最終予選の年であり、12月21日から23日までの全日本選手権大会で人生を賭けたドラマがありました。

勝った選手は今から世界予選へ向けて厳しい練習や重圧と戦っていき、負けた選手は選手人生を見直す決断を強いられます。

どちらも経験した私にしかできないアドバイスをおこない、後輩をより素晴らしい人生へと導いていけるよう、現在の役職を努めていきたいと思えます。

24年ぶりに当時を振り返ることができ、体の芯から新たな力が湧いてくる機会を与えてくださりありがとうございました。

先生方が撒いた種は全国のいろいろな場所で花となり、今、盛りの時期を迎えようとしています。

一つの言葉との出会いが、人生を変えていく。

一つの詩との出会いが、生き方を変えていく。

人との出会いが、未来を変えていく。

様々な指導実践を、ジャンルを問わず、多くの方々がされていることでしょう。

本気であれば、人はいかようにも変わり得ます。

ただそこに、「人権」という視点をしっかりと根づかせること。そのうえで、それぞれが本気を示していけば、人生が、生き方が、未来が、大きく変わっていくのだと思えます。

本気との出会いが、本気を生む。

私たちは、「みんなて語り合う人権学習」を、本気で問い続けていきたいと思えます。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ代表